



■ 2010 年度 事業計画

資料5

2009 年は、新政権がマニフェストで主要な政策として掲げた「子ども手当」の影響があつて、子どもに関する政策・施策へ社会的な関心が高まった一年でありました。そうした状況の中で、にっぽん子育て応援団の発足に代表されるように、子どもに関わる様々な活動を行っている団体・組織等が集まって、子ども関係の政策・施策について話し合い、直接政府へ政策提言を行うという動きが生まれ、協会も参画しています。

しかし、現状の子ども関係政策・施策は、親の子育てに関するものが主流となっており、子どもの育ち・外遊びに関するものは見過ごされてしまうことが懸念されましたので、協会として提言書「外遊びの力を次の世代に」などを活用して主張を述べてまいりました。

さらに、日本全国で 240 を超える団体が冒険遊び場づくり活動を行っていることを背景として、地方自治体等に対して、会員と共に政策提言活動を行いまして、成果として次世代育成対策推進法の後期行動計画に冒険遊び場の言葉を記載したという地方自治体が多く現れています。

今年は、まず全国の冒険遊び場づくり活動や地方自治体の後期行動計画の実態を把握する冒険遊び場づくり全国実態調査 (06) を実施します。おそらく日本全国の中で冒険遊び場づくりを新たに始める団体、及び継続・発展させて新たなステージに挑戦する団体が増えていると考えられます。そこで、各々の冒険遊び場づくり活動の発展を支援する施策を行ってまいります。

具体的には、会員参画編集による N 遊 S の発行 (07) や、地域運営委員をとりまとめ役とした各地域の活動ネットワークづくり (08) とともに、子どもの遊びに関わる様々な立場の大人たちを対象に「遊育」の考えを基本とした人材育成プログラム (09) を実施します。

特に今年は、現代における冒険遊び場の必要性を広く社会へアピールするために 3 つの重点事業を行ないます。

まず、協会活動の基盤となる冒険遊び場づくりの理念を改めて整理 (02) し、社会に対して訴求力を持った表現で発信するための準備を行なうとともに、政府へ子ども関連の政策提言を行う団体・組織と連携して、子供の育ち・外遊びについての効果的な政策提言の行動 (04) を行ないます。

そして、10 月 30 日・31 日には第 5 回冒険遊び場づくり全国研究集会 (05) を、「外遊びが社会をひらく～もっともっともっともっ遊びを～」をテーマとして開催し、そのプレ・イベントとして、8 月 29 日に「もっともっともっともっ そと遊び！」をテーマとして、全国一斉に冒険遊び場を開催します。全国研究集会は、3 年に一度、冒険遊び場づくりに取り組んでいる活動者や冒険遊び場に関心のある市民、行政職員、専門家等が一堂に会し、社会の変化やニーズに合わせた冒険遊び場づくりの取り組みとその重要性について学び、展開ノウハウを共有することを目的としております。

以上により、各地域で特色ある冒険遊び場づくり活動が展開され、日本全国で遊び環境が向上し、地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会、「遊びあふれるまち」の実現に貢献できるように取り組んでいきます。そして、これらの事業が持続可能であるために、収益事業の開発 (03) に取り組み、組織の基盤を強固なものにしていきます。(01)

次ページ以降に、本年度の 9 つの事業計画を記します。



事業概念図

日本冒険遊び場づくり協会のミッション

冒険遊び場づくりの理念と実践の普及を通じて

地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現を目指す

2010 年度事業の骨子（位置付け図）

| <p>3つの活動指針 (2006年度確認)</p> <p>定款の事業分野</p> | <p>1. 遊び観-子ども観を世に問いかける</p> <p>子どもの遊びが人間にとっていかに大切か 冒険遊び場の果たす役割は何か 大人は子どもの遊びにどうつきあったらいいか</p> | <p>2. 冒険遊び場づくりの魅力のアピールする</p> <p>冒険遊び場づくりがどんなに楽しいか どこでどんな多様な活動が進められているか 住民と行政の協働関係などからどんな成果が得られているか</p> | <p>3. 活動の展開ノウハウを開発する</p> <p>活動開始に必要な基礎的条件 活動で起きる諸課題への対処 子どもの遊びと向き合う大人の育成</p> |
|--|--|--|--|
| <p>A. 調査・計画 子どもの遊びを取り巻く環境の実態を捉える調査研究を行い、取り組みの指針を示します 市民主体による冒険遊び場づくりを目指した計画や場づくりを行います</p> | <p>06 冒険遊び場づくり全国活動実態調査</p> <p>02 冒険遊び場づくりの理念再整理</p> <p>04 国への政策提言にむけた研究と行動</p> | | |
| <p>B. 普及・啓発 冒険遊び場に関する情報を発信し、現代における冒険遊び場の必要性を広く社会へ訴えます</p> | <p>05 全国研究集会 全国一斉開催</p> | | |
| <p>C. 相談支援 全国各地の「冒険遊び場づくり」に関する相談に応じ各種事業を通して支援します</p> | <p>07 会員参画編集によるN遊Sの発行</p> <p>08 各地域の活動ネットワークづくり促進</p> | | |
| <p>D. 人材育成 子どもの自由な遊びを支える重要な役割をもつ「人」の育成・研修を行います</p> | <p>09 人材育成プログラム（遊育）の実施</p> | | |
| <p>E. 組織運営</p> | <p>03 収益事業の開発に向けた構想・試行</p> <p>01 中間支援組織としての財政基盤強化と事務局体制再構築</p> | | |

太字：重点実施事業



01 財政基盤強化と事務局体制再構築

- 事業目的：協会は、一人では成し遂げられないミッションを達成するために会員相互による協働・手段・システム（体系）として設立した。その想いと経緯を踏まえて協会の活動を継続的に効果的に機能できる様に、特に財政基盤と事務局体制の強化策を検討する。
- 事業内容：昨年度の会費値上げならびに事務局新体制による成果と課題を検証し今後の対応策を提起する。
- 達成目標：財政は収入増加策のこれまでの実績を検証し今後の展開策を提示する。事務局体制は取り組み事業の実績を踏まえた今後の課題を提起する。
- 実施体制：大村虔一、天野秀昭、石田太介、関戸まゆみ、梶木典子、古賀久貴、根本暁生、三浦幸雄、菅博嗣、事務局・細見佑子。内容に応じて監事ならびに会計担当小笠原が協力する。
- スケジュール：第1 四半期 事業見通しの構築。
第2 四半期 過去年度の事務局事業の検証と課題の抽出と理事会協議。
第3 四半期 過去年度の収支の検証と課題の抽出と理事会協議。
第4 四半期 成果のとりまとめと総会資料の作成。
- 事業部門：<総務><普及啓発>

02 冒険遊び場づくりの理念整理

- 事業目的：協会活動の基盤となる「冒険遊び場づくりの理念」を整理し、社会に対して訴求力を持った表現で発信できるようにする。
- 事業内容：これまでの理事会での検討の経緯や広報における表現等を改めて整理して「冒険遊び場づくりの理念」をわかりやすく訴求力を持った表現で補い整える。これをうけて企業など、これまでに声を届けることが難しかった分野にも発信できる広報について構想する。また、大村代表が各地に出向き、当地の会員・活動者や行政職員等と対話する企画「もっと！対話の会」も広報部門の構想と対応させながら、話題とする事項等の構成を構想する。
- 達成目標：「冒険遊び場づくりの理念」をわかりやすく構築し、広報ならびに対話の会を構想する。
- 実施体制：担当理事の菅博嗣、斎藤啓子、古賀久貴を中心に、「冒険遊び場づくりの理念」を整理する。また識者を交えた検討会議を行い、組織理念の構築を研究し、広報の構想に繋げていく。
- スケジュール：5月～9月 「冒険遊び場づくりの理念」についてこれまでの実績の整理
9月～10月 識者を交えた検討会議～素案の提示
- 事業部門：<組織運営><普及啓発>

03 収益事業の開発に向けた構想・試行

- 事業目的：継続的に安定した収入を見込むことができる収益事業の開発は、協会の安定運営のために急務となっている。本事業は、全国規模の組織という特性を生かし、子ども



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

が遊ぶことへの理解や冒険遊び場への認知の向上、実践上で必要とされる具体的な情報発信などを中心とした幅広い収益事業のあり方を検討し、実施可能なものについては取り組みを実施する。また、すでに実施した受託事業で培われたノウハウの振り返りと整理を行い、受託事業の成果の向上を探る。

- **事業内容**： 協会の収入の柱のひとつである受託事業の、質的向上と効率的な実施体制の構築を目指して、これまでの実績を振り返り、整理・検証する。一方で、会員から広く収益事業等のアイデアを募り、展開の可能性を模索し、事業の開発に向けて対象や実施方法等を想定しつつ戦略を構想する。いくつかは、次年度に助成金に申請できる案や実施可能な収益事業案のとりまとめを模索する。また、事業展開のひとつとして想定される「ノウハウブックレット」については、既存の資料を参考にした試行版の発行を行い、受託事業等において効果を検証する。
- **達成目標**：
 - ・ 収益事業の戦略展開についての構想素案の作成
 - ・ 2011年度の事業に向けた助成金への申請
 - ・ ノウハウブックレット（試行版）の発行
- **実施体制**： 担当理事の嶋村仁志、竹内乃璃妃、古賀久貴を中心に、実績を整理し、会員からのアイデアを取りまとめ、収益事業の戦略展開の素案を作成する。また、識者を交えた検討会議を行い、意見を仰ぐ。ブックレットは嶋村を中心に原稿を執筆し、レイアウト等はデザイナーに依頼する。
- **スケジュール**：
 - 5～9月 受託事業等の実績の整理・検証
 - 10月 N遊S44号発行に合わせ、会員からアイデアを募集
 - 10～12月 収益事業および受託事業の戦略展開に向けた素案作成～助成申請
 - 10月 ブックレット（試行版）の発行
- **事業部門**： <組織運営><相談支援><普及啓発>

04 国への政策提言に向けた研究と行動

- **事業目的**： 子ども・子育てに関連する国の政策については、新政権が主要な政策として打ち出した子ども手当により予算規模が以前のおよそ倍に大きくなる一方で、現金給付と現物給付の使途バランスなどを含めた政策枠組みを総合的に議論する必要性が高まっている。社会全体においても、多くのNPO、各種団体および学識経験者、企業経営者、政治家等が連携して、子ども・子育てに関する政策を議論し、共同で政策提言を行う動きが生まれている。
当協会は、こうした動きに積極的に参画して、遊び環境整備に地域住民と行政がパートナーシップで取り組む冒険遊び場への理解を広めて、「子どもの育ち支援」に関する政策提言を行う
- **事業内容**：
 - 1) 子ども・子育てについて他団体等と共同で政策提言する動きに参画する。具体的には、にっぽん子育て応援団、日本サードセクター経営者協会（JACEVO）との連携など
 - 2) 会員とともに行政、企業等に対し前年度に作成した提言書の説明を継続して行う。
 - 3) 前度事業の成果確認として、次世代育成対策推進法における地方自治体の後期行動計画に「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する施策が記載された事例を収集する。



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

- 達成目標：「地方自治体後期行動計画」で「冒険遊び場」や「プレーパーク」に関する施策が具体化される。
- 実施体制：担当理事（佐々木健二、嶋村仁志、三浦幸雄）が中心となり、他理事の協力を得て、他団体等と共同で政策提言する動きに参画する。前年度の成果確認については、地域運営委員や会員の協力を得て実施する。
- スケジュール：6月まで：前年度の成果を概略確認し、全国集会までにまとめを行う。他団体等と共同で政策提言する動きについては、継続的に参画する。
- 事業部門：＜普及啓発＞＜調査計画＞

05 全国研究集会、全国一斉遊び場開催

- 事業目的：全国で既に冒険遊び場づくり活動を行っている団体の、より質の高い運営を目指した課題整理と学習、ネットワークづくり、「冒険遊び場づくりに関心を持ちはじめようとする人・団体・行政への智恵の伝承、課題調査、研修」、「全国の冒険遊び場で活動するプレーワーカーのスキルアップのための課題整理、相互研修」、「住民と行政によるパートナーシップのあり方に関する課題整理、研修」、「子どもが遊ぶ、子育てできる地域、社会づくりへの提言ときっかけづくりのイベントの企画開催提案」以上のことを含んだ相互の情報交換、ネットワークの構築を行う。
- 事業内容：全国の冒険遊び場づくりの活動団体および関心を持つ市民団体、個人、自治体職員等を対象とした冒険遊び場づくり全国研究集会『外遊びが社会をひらく～もっともっともっと遊びを～』を開催し、地域の拠点となるべく、より質の高い冒険遊び場づくりを目指した相互研修を実施する。また、子どもの遊びの重要性を社会によりアピールするための「プレイデー」（全国で一斉に遊び場を開く日）開催に向けた宣言を行う。
- 達成目標：全国で活動する約240団体（2009年9月現在、北海道～沖縄）の各団体からの参加を目指す。2011年の全国で一斉に遊び場を開く日の実現に向け、研究集会参加者全員による宣言の採択を行う。また、全国各地の団体、個人のネットワークが形成、強化され、各地の遊び場づくりに取り組む個人、団体、自治体に意欲が高まり、知恵が身に付くことや、参加者や、報告の情報を得た者が子どもの遊びに自身を持ち関わることに繋がりたい。
- 実施体制：関戸博樹、嶋村仁志、天野秀昭、（事務局）細見佑子、実行委員会
- スケジュール：6月末～7月上旬 開催要項完成・配布
8月29日 冒険遊び場全国一斉開催の日
8月～9月 参加申し込み受付
10月29日 オプションプログラム
10月30日～31日 冒険遊び場づくり全国研究集会
11月～3月 報告書作成
- 事業部門：＜普及啓発＞＜人材育成＞

06 冒険遊び場づくりの全国活動実態調査

- 事業目的：冒険遊び場づくり活動全国実態調査（全国自治体対象・活動団体対象の2種）を実施し、



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

冒険遊び場づくり活動の現状を把握する。

- 事業内容：全国各地で冒険遊び場づくり活動を行っている団体を対象にアンケート調査を行い、活動実態を把握する。また、自治体を対象にアンケート調査を行い、自治体事業としての冒険遊び場づくり事業への取組み実態を把握する。これら両者の調査結果を過去のデータと経年比較することにより、冒険遊び場づくり活動の実態と経年変化を明らかにする。また、より詳しい活動実態を把握しておく必要のある事例などは、全国各地で開催される予定の小集まりの機会に、現地調査および補足ヒアリング調査等を実施する。
- 達成目標：調査回答への協力を呼びかけることにより、できる限り多くの回答を集め（60%以上の回収率）、信頼性の高い調査結果を得る。調査結果は、第5回冒険遊び場づくり全国研修会において報告し、会員へ広く周知するとともに、協会の今後のビジョン構築、政策提言等の基礎的な資料として活用する。
- 実施体制：梶木典子、関戸まゆみ、根本暁生、（事務局）細見佑子
- スケジュール：5～8月 アンケート調査の内容検討、作成、実施、回収
8～9月 集計・結果分析
10月 結果のまとめ、全国研究集会開催時に報告
11～2月 現地調査、補足ヒアリング調査の実施、報告書の作成
- 事業部門：＜調査計画＞＜普及啓発＞＜相談支援＞

07 会員参画編集部によるN遊Sの制作

- 事業目的：冒険遊び場づくりと「遊びあふれるまちへ」に向けた情報を掲載し、会員の参画でつくりあげる定期刊行物を発行する。
- 事業内容：会員参画の編集部を組織し、年に4回（A4判8ページ白黒印刷）の定期刊行物「N遊S」を発行する。編集会議にて編集方針や内容を検討し、社会情勢や会員の要望にこたえる特集ページ、各地の活動事例の紹介ページ、協会事務局からの連絡ページなどで構成する。企画、取材・原稿執筆・レイアウトデザイン・イラストなどを各人が担当する。
- 達成目標：会員が参画するメディアづくりが各地の活動促進となるよう、全国組織という協会の特長をいかした内容と制作方法を工夫する。
- 実施体制：会員からの公募編集委員（小林アタル、宍戸香織、高子美典、谷居早智世、塚本岳）と、担当理事（齋藤啓子、関戸まゆみ、古賀久貴）、事務局（細見佑子）、印刷は外部発注。
- スケジュール：7月 N遊S43号発行
10月 N遊S44号発行
12月 N遊S45号発行
3月 N遊S46号発行
- 事業部門：＜普及啓発＞＜調査計画＞＜組織運営＞

08 各地域の活動団体ネットワークづくり促進

- 事業目的：全国各地で地域ごとの活動団体のネットワーク化を推進し、連携することで、情報やノウハウの交換、人的交流を進め、冒険遊び場づくり活動を促進する。



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

各ネットワークの情報を協会が集約し、全国で共有できる仕組みを作る。

■事業内容： ネットワークのとりまとめ役として、地域ごとの活動団体数に応じ、地域運営委員を配置する。

地域運営委員は、第5回冒険遊び場づくり全国研究集会に参加し、その成果や情報を自分の地域に持ち帰り、9つの地域(宮城・千葉・埼玉・東京・神奈川・愛知・関西圏・岡山・福岡)で、小集まりを実施する。9地域でそれぞれの冒険遊び場づくりを紹介するマップを作成する。

■達成目標： 地域運営委員が、活動団体数に応じて名乗り出て、各地域の活動団体ネットワークのとりまとめ役になり、小集まりやマップづくりを行ないながら、冒険遊び場づくりを進める。

■実施体制： 石田太介、天野秀昭、梶木典子、関戸まゆみ、(地域運営委員)

■スケジュール： 4月～9月 各地域で地域運営委員を募集
10月 地域運営委員が第5回冒険遊び場づくり全国研究集会に参加
11月～2月 全国9か所 各地で小集まり開催
11月～3月 各地域でマップづくり・配布

■事業部門： <普及啓発><組織運営>

09 人材育成プログラム（遊育）の実施

■事業目的： 冒険遊び場づくりの理念の普及と実践につながるプレーリーダー、運営に当たる市民、サポートする機関や行政担当者など、冒険遊び場づくりに関わる人材を育成する。立場の違いによらず子どもの遊びに関わる大人が、自分の持つその社会的立場だからできる子どもの遊びに対する支援を考え、また大人だから子どもに対して考えなくてはならない遊びの環境に対する思いを実践することを目的とする。

■事業内容： 子どもは、遊びを通し自ら育とうとし、また実際育つ力を持っている。しかしこれは、子どものみならず大人にしてもそう言える。こうした「遊育」の考えを基本とするプログラムを実施する。

■達成目標： 1)常設の冒険遊び場で常駐する基礎力を身につけたプレーリーダーの育成(大正大学のびのび子どもプロダクトコース子ども遊び創造サブコース/修了まで4年必要)
2)冒険遊び場を担う基礎力を備えたプレーリーダーの育成。
3)冒険遊び場を立ち上げ、活動していこうとする子育て中の親の発掘。
4)運営に当たる市民の、コミュニティーコーディネーションスキルの充実。
5)官民協働をイメージして計画できる行政マンの輩出。

■実施体制： 天野秀昭、竹内乃璃妃

■スケジュール： 夏期：大正大学と連携して公開遊育プログラム（3回）を実施。
随時：単発の講座実施。

■事業部門： <人材育成><普及啓発>



■ 2010 年度 予算

資料 6

日本冒険遊び場づくり協会2010年度収支予算書

収入の部

単位:千円

| | 組織運営 | 組織運営 事業01 | 組織運営 事業02 | 組織運営 事業03 | 普及啓発 事業04 | 普及啓発 事業05 | 調査計画 事業06 | 普及啓発 事業07 | 普及啓発 事業08 | 人材育成 事業09 | 合計 |
|--------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
| 会費収入 | 3,300 | | | | | | | | | | 3,300 |
| 寄付金収入 | 800 | | | | 50 | | | | | | 850 |
| 受託事業収入 | 2,000 | | | | | | | | | | 2,000 |
| 参加費収入 | 100 | | | | | 1,275 | | | | 50 | 1,425 |
| 販売等収入 | 1,000 | | | 100 | 120 | | | | | | 1,220 |
| 助成金収入 | | | | | | 6,316 | | | | | 6,316 |
| 広告収入 | 50 | | | | 100 | 1,000 | | | | | 1,150 |
| その他収入 | | | | | | 536 | | | | | 536 |
| 収入合計 | 7,250 | 0 | 0 | 100 | 270 | 9,127 | 0 | 0 | 0 | 50 | 16,797 |
| 前期繰越 | 4,291 | | | | | | | | | | 4,291 |
| TOTAL | 11,541 | 0 | 0 | 100 | 270 | 9,127 | 0 | 0 | 0 | 50 | 21,088 |

支出の部

単位:千円

| | 組織運営 | 組織運営 事業01 | 組織運営 事業02 | 組織運営 事業03 | 普及啓発 事業04 | 普及啓発 事業05 | 調査計画 事業06 | 普及啓発 事業07 | 普及啓発 事業08 | 人材育成 事業09 | 合計 |
|--------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
| (事業費) | | | | | | | | | | | |
| 給料手当て | 0 | | | | | 1,476 | | | | | 1,476 |
| 謝金 | 1,200 | | | | | 2,002 | | | | 30 | 3,232 |
| 仕入れ | 900 | | | 60 | 150 | 816 | | 130 | | | 2,056 |
| 事業委託費 | 500 | | | | | | | | | | 500 |
| その他事業費 | 600 | | 10 | 10 | 50 | 4,433 | 10 | | | 20 | 5,133 |
| 事業費合計 | 3,200 | 0 | 10 | 70 | 200 | 8,727 | 10 | 130 | 0 | 50 | 12,397 |
| (管理費) | | | | | | | | | | | 0 |
| 給料手当て | 2,208 | | | | | | | | | | 2,208 |
| 法定福利費 | 265 | | | | | | | | | | 265 |
| その他管理費 | 1,012 | | | | | | | | | | 1,012 |
| 管理費合計 | 3,485 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,485 |
| 支出合計 | 6,685 | 0 | 10 | 70 | 200 | 8,727 | 10 | 130 | 0 | 50 | 15,882 |
| 次期繰越 | | | | | | | | | | | 5,206 |
| TOTAL | 6,685 | | | | 200 | 8,727 | 10 | 130 | 0 | 50 | 21,088 |

| | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|------|------|-------|------|-------|-----|-----|-------|
| 当期収支差額 | △ 565 | △ 0 | ▲ 10 | △ 30 | △ 70 | △ 400 | ▲ 10 | ▲ 130 | △ 0 | △ 0 | ▲ 915 |
|--------|-------|-----|------|------|------|-------|------|-------|-----|-----|-------|

※ 事業 01 は、組織運営（事務局）予算の範疇で行う。

※ 事業 06 の調査に関わる費用ならびに事業 08 に係る支出は、全国国集会事業予算（事業 05 に計上）に含まれる。



■第5回冒険遊び場づくり全国研究集会について

資料7

全国研究集会開催についての現状報告（100415 現在）

担当理事：天野秀昭・嶋村仁志・関戸博樹

当協会は、開設以来、日本全国で冒険遊び場づくりに向けた機運を高め、全国に広がる活動団体の積極的な交流や情報交換の機会づくりを願い、1998年の第1回から3年ごとに開催し、今回で5回目となりますが、その都度、活動団体が増えるきっかけにもなっており、第1回の57団体から、第2回110団体、第3回192団体、第4回230団体という素晴らしい広がりを見せています。2010年はその3年目に当たり、開催への要望も高まる中で決定いたしました。今回は、神奈川県・横浜を会場にして、全国研究集会の準備を始めています。すでに、開催準備は今年の1月に始まっております。常設の冒険遊び場も多く、精力的に活動する横浜市の活動団体のみならず、神奈川県はもとより、関東近県の方々にも深く関わっていただきながら、鋭意、準備を進めています。

□全体テーマ：外遊びが社会をひらく～もっともっともっと遊びを～

1月から4月の実行委員会の数回の集まりに渡って考えてきた全体テーマ。「私たちが立ち戻れる事」を大切に、そして「社会全体に対してのメッセージ」ともなりうることをテーマ設定の判断基準としながら作りあげたものです。遊びというやや広い概念ではなく「外遊び」という自らのおかれた環境を変化させていく行動にフォーカスをあてることで、主体的に社会という環境に働きかけて変化させていくという意味をこめた「ひらく＝拓く」が生きてきます。私たちの冒険遊び場づくりの活動が、現代の社会に対してどう働きかけるべきかを考える上で立ち戻ることができ、且つ「～もっともっともっと遊びを～」というフレーズの持つ言葉の響き、勢いが一般の人たちへのメッセージとしても共感を得やすいと判断して決定となりました。

□日程：2010年10月30日（土）～31日（日）※プレツアーは、10月29日（金）

□会場：野島青少年研修センターおよび野島公園キャンプ場（神奈川県横浜市）

□予算案と参加費、賛同金について

◇予算案：昨年度より申請をしておりましたWAM（福祉医療機構）の助成金が6,316,000円で内定通知をいただきました（※再申請後の審査により、最終的に助成額が決定になります）。

この予算を元に、実行委員会の開催、基調講演者や話題提供者への謝礼、会場使用料の支払い、全国研究集会に向けた事務局員の雇用を考えております。

◇参加費について：全国集会開催のための費用については、予定されている助成金からの支出でまかなわれる部分も多くあり、できる限り参加しやすい参加費を考えております。その一方で、当協会が継続的な活動を展開するための財源確保にもご理解、ご協力いただきたく、参加費一律5,000円としたいと考えています（食事などの実費・記念講演・プレツアー参加費は別途）。

◇また、会員、会員外の方からも、今回の全国研究集会の開催に向け、その運営費に用途を限定した賛同金を募りたいと考えています。



遊び あふれる まちへ！
日本冒険遊び場づくり協会

□体制

◇今回の全国研究集会は、担当理事（関戸・嶋村・天野）、全国集会事務局（山田）、協会事務局（細見）を中心に、実行委員会形式で実施します。実行委員会は、神奈川県民サポートセンター（横浜市）を中心にして月1回の開催ですが、直前の数カ月は月2回実施していく予定です。

□開催プログラム案

◇内容については実行委員会で検討中です。主に、基調講演と分科会を軸にした構成を考えています。今回の全国研究集会では、今までにも見られた「冒険遊び場に関わる活動報告やノウハウの共有」と同時に、「冒険遊び場とつながる近接分野との連携」や「社会への発信」を軸にした分科会の構成も考えています。

◇また、本大会に付属する形で、プレツアーを計画中です。会場となる横浜市内各地の冒険遊び場、近隣となる川崎市、世田谷区、渋谷区、新宿区など、8か所程度の冒険遊び場をピックアップし、2ヶ所×4ツアー程度の規模での開催を企画しています。

<タイムテーブル案 20100411時点>

| | 時間 | 全体 | 青少年センター | 野島公園 | 備考 |
|--------|---------------|---|--------------------------|------------------------|--|
| 29日(金) | 10時～15時 | オプションプログラム:巨大テント設営ワークショップ/横浜及び周辺の冒険遊び場見学ツアー(4コース)&報告会 | 見学ツアー報告会 @ 食堂 | 40畳の巨大テント設営ワークショップ(天野) | 見学ツアー候補地(未打診): ①羽根木プレーパーク&のざわテットーひろば/②渋谷はるのおがわプレーパーク&新宿・戸山プレーパーク/③片倉うさぎ山プレーパーク&川崎市子ども夢パーク/④YPCより推薦で2ヶ所 ※14時～荷物の搬入可 |
| | 17時～19時 | | | | |
| | 19時～ | 夕食・宿泊 | | | |
| 30日(土) | 10時20分～11時 | 記念講演 | 記念講演受付 | | 関東学院大学は使用できるかまだ未定 |
| | 11時～12時 | | 記念講演@関東学院大学?(野島から徒歩で行ける) | | |
| | 12時～13時 | 昼食・集会受付 | | | 昼食は各自で調達 |
| | 13時～ | 集会開会 | 開会の挨拶(西野) | | |
| | 13時10分～14時40分 | 基調講演 | 基調講演@食堂 | | |
| | 14時40分～ | 休憩 | | | |
| | 15時～18時 | 分科会A「冒険遊び場を切り口とした内容で」 | 分科会①～⑧ | 分科会⑨ | |
| | 18時～ | 休憩 | | | |
| | 18時半～21時 | 交流会 | | 交流会・夕食・キャンプファイヤー | 入浴は18時～23時まで各自がすすめる/キャンプ場⇄センターの出入りは23時まで可 |
| 21時～ | 宿泊 | | | | |
| 31日(日) | ～9時半 | 朝食 | | | 調理師に依頼 |
| | 9時半～12時半 | 分科会B「冒険遊び場以外を切り口にした内容で」 | 分科会①～⑧ | 分科会⑨ | 分科会開始前には各自宿泊室の清掃を済ませてチェックアウト |
| | 12時半～ | 昼食・休憩 | | | 調理師に依頼 |
| | 13時半～15時 | 全体会 | 全体会@食堂 | | |
| | 15時10分～ | 集会閉会 | 閉会の挨拶 | | |
| | 15時20分～ | 解散 | | 巨大テント解体 | 15時半以降は他の一般利用者あり |
| | ～17時 | 完全撤収 | | | |



■ 第5回冒険遊び場づくり全国研究集会プレ企画 冒険遊び場全国一斉開催の日 **資料8**

テーマ 『もっと、もっと、もっと 外遊び！』

- 日時 2010年8月29日（日）午前10時スタート
- 主催 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会
- 参加団体 全国の冒険遊び場活動団体（246団体）に呼びかけ
- 協賛 大正大学
- 後援（予定） 厚生労働省、国土交通省、公園緑地協会、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、共同通信

□ 趣旨

子どもの外遊びが、壊滅的状况に陥っている。外遊びに関する調査を根気強く行ってきた建築家の仙田満氏（こども環境学会会長）によると、「子どもの遊び空間を例にとると、1955年頃から1975年頃までの20年間で、大都市では約1/20、地方都市では約1/10になるという激しい量的減少をみるが、自然スペースの減少は著しく、約1/80への激減であった。1995年頃までのその後の20年間でも減少は続き、さらに1/2～1/4になっている。（「子どもの遊び環境」仙田満・著）。それから更に15年を経ている現代では、この状況から更に悪化していることは想像に難くない。

近年になり、単に量的な問題ばかりでなく質的にも大きく変化し、犯罪からの防衛として、子どもだけでは公園に行くことを禁じる場所が出てきている。また、子どもの利用が高い遊び場ではその歓声がうるさいとのクレームから利用が制限されたり、人気の高い遊具が使用禁止になることも珍しくなくなっており、事実上、子どもは外遊びから追いやられていると言って過言ではなくなっている。

冒険遊び場は、こどもが豊かに遊び、のびのびと育つことができる環境を子どもに返そうと考えた大人たちが生み出した遊び場である。「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーを掲げ禁止事項を極力排したこの遊び場は、主に地域住民の手によって運営されている。自然を素材とした子どもの遊び場であると同時に、多世代が集い交流するコミュニティの場ともなっている。1975年、世田谷に始まり、現在では全国に240の活動を数えるまでに至ったが、安全安心が叫ばれ、何かあったときには責任を追及するという現代の風潮がこの活動を広める上での大きな障壁となっている。また、この障壁とは、子どもが時には怪我をも含めた試行錯誤の上で生きる知恵や他者との関係を知っていくのだという、子ども自身が自ら育つ権利の障壁であると言える。

もはや、緑豊かな地域の子どものさえ無縁とは言えないそと遊びの喪失。「この川も境内も、俺等が群れて遊んだ頃から全く変わっていない。ただひとつ変わったことは、遊ぶ子どもの姿が消えたこと」人口5000人の村の教育長が語った実感である。

こうした全国を支配する子どものそと遊びの閉塞感を打破しようと、私たちは『冒険遊び場全国一斉開催の日（仮）』と題し、一大キャンペーンを企画した。これは、全国で活動する冒険遊び場づくりに取り組む団体が日にちを定め一斉に冒険遊び場を開催し、その話題をマスコミ等に取り上げてもらい社会に大きな一石を投げようとする取り組みである。また、2ヵ月後（10月29～31日）に控えた3年に1度の『冒険遊び場づくり全国研究集会』へ向けたアピールの場でもある。

□ 目的

- ① 冒険遊び場を社会に広く知らしめる
- ② 多くの人が当日参加することで、冒険遊び場の楽しさを実感してもらう
- ③ 全国同時開催することで、遊び場づくりに携わる人たちの一体感を醸成し活動に対する士気を高める
- ④ もって、政策への反映を訴える
- ⑤ 2ヵ月後に控えた『第5回冒険遊び場づくり全国研究集会』のアピールを行なう